

2001
四季のコンサートだより

2001年10月1日発行

浜松音楽友の会

事務局 〒430-0904浜松市中沢町44-11

電話連絡 (053)473-3579(原)

<http://www6.plala.or.jp/hamatomo/>

道 の り

須川 展也

サクソフォンと中学時代に出会い、相当それにのめりこんだら今の自分がいました。

サムテイラーの妖艶な音を聴き、クラシックの透明な音を聴き、すごい音の世界にどっぷり浸りっぱなしでした。浜松北高に入ったら楽器を買ってあげるなんて言われて勉強に励み（とはいえほとんど毎日吹いていましたが）、なんとか合格。高校に入った時には医者になりたいとも思っていました、吹いてばかりで成績は落ちる一方。だいいち血を見ると目眩がする私に医者は向いていなかったですね（笑）。そんな中で高校の先生の助言もあり、芸大を受けてみるとの話が進みました。ますますクラシックのサクソフォンにのめりこんでいた私ですが、先の見えない将来に親が反対したのも無理はありません。オーケストラにも常時在籍せず、クラシックの世界におけるサクソフォンの位置は、ほとんどお客さま程度。どうやって生活していくかも心配であったでしょう。でも結局は僕のあまりにも熱意に押され、芸大受験を許してくれた両親に今でも感謝しております。僕にも不安はたくさんありましたが、中学生の時、聴いていたビゼー作曲の『アルルの女』の中のなんともいえない透明な美しい音に感動した事は忘れませんでした。あれだけ感動したんだから、この音で多くの人に魅力をアピールする事ができるはずと信じ、専門家になるべく必死で頑張りました。そのかいあって奇跡的に芸大に入学することができました。

大学での先生は大室勇一先生（世界的な指導者で、大変悲しいのですが白血病で亡くなりました）。先生は私に音楽の「表現としての楽譜の読み方」を教えてくださいました。ただ正確なだけではだめで、楽譜の中を読む（文章の行間を読むみたいな事）という、何故そう吹くのかを考え、面白さをどう演奏するかが課題だったのです。その課題に取り組んでいくうちに、演奏家として多彩な表現を求められても対応できるようになっていったように思います。しかし頑張りながらも将来の不安は消えませんでした。やはりクラシックのサクソフォンの知名度の低さを実感していました。演奏家として生活するにはあまりにも世間の認識がない事に気付き、やはりジャズかなと

思ったり悩んだこともあります。でもほんの少数でも誰か演奏する人がいなければ知られないとの強い気持ちを持ち続け、コンクールにも自分をかけて挑み何度か賞をも頂くことが出来ました。でも現実には厳しい。どんなに良いプロフィールを持とうが、やはりこの

楽器の持つイメージはあまりにも壁が多く前途多難。「サクソフォンはジャズの楽器でしょ!」とのジャズまでけなす様な差別的言葉に僕のとった方法は、「どんな所でも、たとえ出演料が無いに等しくても演奏の場があったら吹き続ける事」でした。多彩な音色を持つ素晴らしい楽器。その魅力を伝えたい一心でデパートの前の広場やショッピング街、レストランの中等、少しでも耳を傾けて頂ける場があるのなら演奏してきました。それから、偶然にも日本を代表するプロフェッショナルな吹奏楽団、東京佼成ウインドオーケストラにも入団し、またトルヴェールクワルテット（この間のコンサートで覚えていらっしゃる方も多いと思いますが）というサクソフォン四重奏団を結成し、そのなかで合奏しながら多くの音楽に触れ、たくさんの事を学び始めました。いろいろな所で吹く事や合奏の中で音楽のいろいろな部分を演奏するこの両方の経験が、私の演奏技術を深めました。またこの楽器のために作曲や編曲をしていただき、それらが少しずつ実りCDをリリースし、コンサートが増えて今に至っています。そう、僕の場合、叩き上げ現場仕込みがあってこそなんです。そして多くの人にお世話になりながらいろいろな経験を持たたことを誇りに思っています。

今もなお「クラシックサクソフォンとは何か」という大きな命題を持ちながら、この素晴らしい楽器の魅力を伝える事をライフワークにしています。

僕の夢は「おじいちゃんになっても多くの人に音楽を楽しんでもらえる演奏家であること!!」なのです。



ベルリンだより

5月のリサイタルの際には大勢の方々にお越しいただき、本当にありがとうございました。自分なりに反省するところは多々ありますが、これをステップにまた勉強していきたいと思っています。

さて、私はベルリン音大の入試に無事合格することができ、7月からベルリンでの生活がスタートしました。今年の2月に一度ベルリンを訪れたのですが、その時とはまるで違う光景に驚かされました。冬は何もかもが枯れ、寒々しかった風景が、さんさんと輝く太陽に照らされ、街中が瑞々しい緑に溢れているのです。ドイツの人たちは夏が来るのを本当に待ちわびていたのでしょうか。芝生に寝転がって日光浴をしたり、レストランやカフェ（ほとんどの店はオープンテラスになっていて外で食事ができる）でのんびり過ごしたりと、平日の昼間でも本当に

浜松出身ピアニスト 奥村友美

たくさんの方がいるので、日本の考えでいくと、この人たちはいつ働いているんだろうと思ってしまいます。もっとも、気温30度を超え湿度の高い日本では、外で優雅にお茶など飲んでいられないかもしれませんね。

そのうえ、夜の10時くらいまで明るいので一日が長く感じ、時間にゆとりが持てるようになった気がします。10月になって学校が始まれば、レッスンやドイツ語の授業に追われて、そんなのきなことは言っていないと思いますが……。

ベルリンの夏はとても短く、あっという間に長く暗い冬がやってきます。もう少しの間、短い夏を楽しもうと思っています。皆様もお体に気をつけてお過ごしください。また演奏会で皆様にお会いできることを願って、勉強に励んでいきたいと思っています。 7月25日、ベルリンにて。

ふれあって18年

さして音楽に興味のない私が「四季のコンサート」会員になった。音楽好きの妻の仕業だった。第1回はヴァイオリンの久保陽子さんだったと記憶している。素晴らしい音色だった。ネットリとからみつくような力を感じた。感動を覚えた。

もっとも初めの頃は、いつも感じ入るというわけにはいかなかった。聴き慣れない曲は退屈で、気がつくとき全く関係のないものが脳裏を駆けめぐっていた。聴くのに努力が必要だった。アンコールも苦手だった。出演者と聴衆の気分がひとつになっ

友の会会員 小澤英夫

た結果というよりは、セレモニーという印象だった。場内が明るくなるとなにかホッとした。

不思議なことに、いつの頃からか退屈するようなことがなくなった。「よかった」「素晴らしい」という感想を素直に感じるようになった。アンコールタイムも苦にならなくなった。聴く力が自然に身についたのかもしれない。企画と運営がよくなったのかもしれない。

「四季のコンサート」について

私は「四季のコンサート」このコンサートが毎回とても楽しみです。毎回素敵な演奏者たちが聴かせてくれる音楽は、いつも魅力的な世界に私達を誘っているようです。

私が一番印象的だったのは、最近のコンサートで奥村友美さんの演奏会でした。

奥村さんのシューマンの「謝肉祭」は、さすがだなと思いました。心に語りかける奥村さんの深い音楽が私は大好きで、浜

高1 岡部美喜

松出身でこんなにも活躍している人がいて、スゴイと思いました。また、ドイツから帰国してきたら聴きたいです。

他に私がいつも楽しみなのは、管楽器などのデュオやトリオの演奏会です。私は普段、管楽器を聴くことが少ないのですが、「四季のコンサート」では年に一度はあり、とても嬉しいです。浜松で素敵な演奏が気軽に聴けるチャンスを活かしてたくさんのクラシックを聴き、好きになっていきたいです。

これからのコンサート予定

秋

パスカル・ゴダール ピアノリサイタル

10月10日(水) 6:45 PM

1997年以来、2回目の出演となるパスカル・ゴダールは数々のコンクールに上位入賞し、1996年のマリアカラス国際コンクールでは見事グランプリを受賞。その後、本格的にヨーロッパ各地でのリサイタルやオーケストラとの共演を続けている、フランスの若手ピアニストです。ワイセンベルグやスコダからも高い評価を受けているその素晴らしいピアノは、ヨーロッパの多くの専門誌で絶賛されています。

今回は、彼のお得意のレパートリーの中から、ショパンとラヴェルのプログラムです。久しぶりの彼の演奏を、どうぞご期待ください。



プログラム

バラード 第1番 Op.23 ショパン
 ファンタジー ヘ短調 Op.49 ショパン
 スケルツォ 第1番 Op.20 ショパン
 幻想ポロネーズ Op.61 ショパン
 スケルツォ 第2番 Op.31 ショパン

鏡 ラヴェル
 ラ・ヴァルス ラヴェル

冬

加藤知子(ヴァイオリン)・鈴木大介(ギター)デュオリサイタル

12月2日(日) 6:45 PM

加藤知子はチャイコフスキー・コンクール第2位入賞後、リサイタルや室内楽でも華々しく活躍し、国内はもとより海外のオーケストラとの共演でも高く評価されているヴァイオリニストです。また、鈴木大介は若手ギター界の中心的存在として、内外の活発な演奏活動や武満徹の作品の演奏で絶賛され、各界から期待されています。この二大スターによるヴァイオリンとギターのアンサンブルという大変興味深いデュオリサイタルの実現です。ぜひとも見逃せない注目のコンサートです。



プログラム

無伴奏ヴァイオリン・ソナタ プロコフィエフ
 二長調 作品115 (ヴァイオリンソロ)
 カンタービレ バガニーニ
 「スペイン舞曲集」より 作品22-1 サラサーテ
 アンダルシアのロマンス
 「スペイン民謡」より ファリャ
 ホータ・子守歌・ポロ

亡き王女のためのパヴァーヌ (ギターソロ) ラヴェル
 月の光 (ギターソロ) ドビュッシー
 タンゴの歴史より ビアソラル
 ルーマニア民族舞曲 バルトーク

★お願い！ 演奏会の日時をお忘れなく★

おかげさまで浜松音楽友の会には現在、はまホールを満席にするぐらいの会員がいらっしゃいます。それにもかかわらず残念なことに、時々空席が目立つように思われます。どうぞ演奏会の日時をお忘れにならないように、お気をつけください。もしお出掛けになれない時は、チケットをお知り合いの方に差し上げて頂けませんでしょうか。一人でも多くの方々にいらして頂き、会場いっぱいの人々と拍手で演奏者をお迎えし、「ふれあうことのできる音楽会」を催せたらとスタッフ一同願っております。

2002年 四季コンサート 予定

春 戸田弥生 ヴァイオリンリサイタル 4月5日(金)

1986年秋のコンサート「桐朋学園大学オーケストラ」で、コンサート・ミストレスとして鮮烈な印象を私たちに与えた戸田弥生の再登場です。1995年に日本音楽コンクール、1998年にはエリザベート王妃国際音楽コンクールに優勝して一躍脚光を浴び、その後の活躍は目覚ましく世界的に著名な指揮者と数多く共演しています。すばらしい演奏会になることでしょう。アムステルダム在住。

夏 アレキサンダー・ガブリリョク ピアノリサイタル 6月29日(土)

昨年(2000年)11月の第4回浜松国際ピアノコンクールにおいて、名だたる世界の強豪の中から、弱冠16歳にして審査員満場一致で第1位を受賞したウクライナの新星です。信じられないほどの完成度で、超絶技巧だけでなくつややかでロマンチックな感性を持つ「20世紀後半最高の16歳」と絶賛されています。さらに成長した若き天才が、友の会のために来日し、友の会のためのプログラムを演奏します。どうぞご期待ください。

秋 アレクサンドル・ナウメンコ バスリサイタル 10月10日(木)

モスクワのポリショイ歌劇場のバス歌手アレクサンドル・ナウメンコが友の会のために来日します。彼は大統領からロシア功労芸術家の表彰を受けたロシアを代表するバス歌手です。日本では聴く機会の少ない本場のロシア民謡やロシア・オペラのアリアの魅力的なコンサートです。ピアノは、第4回浜松国際ピアノコンクールに参加した彼の愛娘、アレクサンドラ・ナウメンコ。息の合った父娘の共演が楽しみです。

冬 徳永二男(ヴァイオリン)と仲間たち 12月^{6日(金)}予定

NHK交響楽団の顔として長年コンサートマスターを務めた後、ソリストとして名実ともに日本のトップ・プレイヤーとして活躍しているヴァイオリンの徳永二男と、彼が信頼をおく仲間たちとの室内楽。メンバーは、最も権威あるコンクールの一つ、ロシエティボー国際コンクールに優勝したヴァイオリンの小林美恵ほか、日本を代表するソリストたちを予定しています。至高の室内楽をお楽しみください。

浜松出身の演奏家シリーズ

フルートアンサンブル「リンクス」 5月14日(火)

4人の若手女性フルーティストのクアルテット「リンクス」には、浜松出身の松崎麻衣子(浜松学芸高校卒業)が参加しています。全員が東京芸術大学卒業の実力者揃い。CDも立て続けに3枚発売し、TVにも取り上げられて人気急上昇中です。フルート4本による豊かなハーモニーと絶妙なアンサンブルが魅力です。どうぞお楽しみに!

各回共 於: はまホール

★会員の皆様へのお願い★

会員日より 皆様のご寄稿をお待ちします。400字詰原稿用紙2枚以内でお願いいたします。テーマは自由です。

会員登録は、年度が変わってもそのまま継続されます。

退会希望の方は、ハガキに住所・氏名・電話・会員番号をご記入の上、前年度の12月末日までに事務局宛に退会の旨をご連絡ください。

名義変更の方は、ハガキに旧会員と新会員の住所・氏名・電話・会員番号(旧会員の)をご記入の上、事務局宛にお送りください。

保育室ご利用の方は、コンサートの前日までに、金子 ☎053(478)7478までお申込みください。

開場時(開演30分前)から終演までお預かりします。1回500円です。

●インタビュー・花束贈呈係を募集しています。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。